

外国語科・外国語活動 授業改善推進プラン

- 1 学力効果測定結果（第6学年のみ）
- ・「思考・判断・表現」「知識・技能」と、3割程度が目標値と区平均を上回っている。中でも、聞く問題に関しては、書く問題や読む問題より正答率が高い傾向にある。また、単語や表現の意味理解の問題では校内正答率が100%の項目が2つあり、聞く問題ではリスニング練習の成果が一定値あったといえる。
- ・音声聞いて、活字体で書かれた文字を正しく書く問題における正答率が、全国正答率と比べると10%以上低い。アルファベットは正しくかけているが、4線上の書く位置を正確に理解していない可能性があるため、文字の高さの違いを意識させたり、まぎらわしい形を意識させたりする必要がある。
- ・例文を参考にしながら、身近な事柄について簡単な語句や基本的な表現を用いて書く問題における正答率が低い。例示された中に児童の表現したい言葉がない場合、指導者が個別に書きたい語句を提示するなどして、児童の積極的に書くとする気持ちに柔軟に対応していく。
- ・「読む」における正答率が低い。文字と音との関係を理解し、単語を音声化していくことが有効である。そのためにはイラストやカードを使い、積極的に声を出して練習することで語彙を増やす必要がある。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題） ※第6学年以外は実態で記述

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
・外国語に初めて触れる児童が多いが、意欲的に外国語の授業に取り組もうとしている。 ・活動に楽しんで参加しながら、内容を理解しようと参加している。	・楽しんで活動に参加している児童が多いが、内容理解や定着は難しい児童がいる。 ・不慣れな言葉や雰囲気、消極的な態度の児童がいる。	・楽しんで活動に参加している児童が多い。しかし、外国語になじめず消極的になったり、難しい表現が出てきたときに活動に参加しようとしていない児童がいる。	・外国語指導講師の発音に近づけて発音するよう指導することで、英語の音声やリズムなどに慣れ親しむ機会を増やす。 ・外国の生活や習慣・行事などを教材として扱うことで、異なる文化について気付けるようにする。	・学習に意欲的に取り組んでいる。 ・日常に英語がありふれているので、単語の発音は得意だが、文法になると苦手意識をもつ児童が多い。 ・タブレットなどを用いて、積極的に自己に関する英文を書こうとする児童が多い。	・これまでに学習した単語や進出単語を覚えて活用しようとするが、外国語を用いた文章を書くことに関しては苦手意識を持っており、文章を書けない児童が多い。 ・聞く・読む活動は得意な児童が多いが、話す・書く活動は全体的に苦手とする傾向がある。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	・授業中に、色や数等の単語を聞いて、外国語指導講師の発音を真似して、繰り返し発声する。	・挨拶、自分の気分など、日常的に使える言葉を、学習の最初に発声することで、基本的な表現を覚えて、扱えるようにする。	・外国語の基本的な表現に慣れ親しむことができるように、外国語指導講師の発声に続いて発声する活動を繰り返し設定する。	・外国語指導講師の発音に近づけて発音するよう指導することで、英語の音声やリズムなどに慣れ親しむ機会を増やす。 ・外国の生活や習慣・行事などを教材として扱うことで、異なる文化について気付けるようにする。	・外国語指導講師やデジタル教科書を活用し、聞き取る機会を増やす。 ・基礎的な英語の文を書かせる活動や話す活動を繰り返し行うことで習得させていく。	・リズムに合わせて発音することで、標準的な発音やイントネーションを身に付けさせる。 ・毎時間、授業内に単語や基本的な英語の文を繰り返す時間を設け、新出の単語を慣れ親しませる。
思考・判断・表現	・色や数等の単語について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝えるアクティビティを設定し、活動することで、伝え合う力の基を養う。	・天気や食べ物などの子どもにとって身近な英語に慣れさせるために、掲示物を活用する。	・基本的な表現でのやり取りを含むアクティビティの設定し、活動することで、伝え合う力の素地を養う。	・ペア活動を増やすことで自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、伝え合えるようにする。 ・ワークシートやゲームを通じて、自分の考えや気持ちなどを伝えたいことを伝えられるようにする。	・身近な単語や表現を使って、自分のことや友達のことを、相手に伝える活動を増やす。 ・新出単語や基本的な英語の文を用いて、一文を考える活動を単元の中で何度か設定する。	・ペアやグループワークを通じて自分のことや興味のあることを外国語で表現する活動を行い、伝え合うことができる基礎的な力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	・外国語に親しめるように、日常生活の中で外国語に触れる機会を増やしていく。	・外国語に親しめるように、日常生活の中で外国語に触れる機会を増やしていく。	・ペアやグループで楽しめるようなゲームを設定し、ゲーム等の活動の中で外国語を自然に発することができるようになる。	・クイズやゲームを取り入れ、外国語に親しむ機会を増やす。 ・音楽やリズム遊びを取り入れて、興味・関心を高める。	・日頃から自身が使っている言葉を外国語で表現するとどういった言い方になるか、習得したものを活用しながら考えられるよう促す。	・単元の最後にプレゼンテーションを設定し、外国語を使って自分のことを伝えようとする力を高める。

※重視する内容は、網掛けで強調する。